

令和5年度

ふるさと教育かづの学 研究集録



秋田県立十和田高等学校

巻 頭 言

校 長 深 井 裕 之

「リンリン」、「カランカラン」と子どもたちが鈴の音を響かせて登下校している姿を、ほほえましい気持ちとは真逆の、無事を祈る気持ちで見送るようになると誰が想像したでしょうか。今年度はクマの異常出没が大きな社会問題となり、鹿角でも多くの被害がありました。本校の「かづの学」では動植物の生態調査にも継続的に取り組み、以前からクマに着目しておりましたが、近年の調査ではそのクマだけでなく、本来この地域に生息していなかったニホンジカやイノシシ、カワウなどの群れも観察されるようになりました。「かづの学」の過去の生態調査を元にして今年のクマの異常出没を予測したり予防したりすることは困難だと思いますが、今年の異常出没を身近に体験した本校生であれば、クマ以外に観察された生物についても、今後の遠くない未来に何かをきっかけに大増殖して、この地域に大きな被害をもたらす可能性があることは十分に予想できることと思います。

そして、少し俯瞰してみると、その被害を受ける側の動植物もまた「かづの学」で取り上げている「北限の桃」や、地域の食文化を支えるソバの実や、釣り人が憧れる鹿角の大鮎といった鹿角の大切な資源であることや、野生生物の出没や被害が深刻化すれば、雄大な自然や豊かな実りに支えられた鹿角の観光や、移住定住推進事業などの地域活性化にもマイナスの影響を与えることなども見えてきます。

このように「かづの学」で別々に取り組んでいるさまざまな分野の研究課題が、実生活の中では相互に関連している課題だと気付くことができれば、この地域を安全で豊かに発展させるには、その分野の専門家任せにせず、異なる分野の多くの人たちが協働して課題に立ち向かうことが大切だということにも気が付くと思います。本校生徒が「かづの学」のさまざまな協働的な探究活動を通して学び、身に付けた資質や能力が、いつか、そのような場で、行動をともなって発揮されることを願っております。

ご存知のように、鹿角3高校が統合して4月から鹿角高校として新たなスタートを切ることになり、12月に行われた公開研究発表会が本校最後の発表会となりました。生徒たちは、これまで10年間の先輩たちの研究への敬意や、自分たちの研究を未来に引き継いでもらいたいという願いを込めて研究に取り組んできましたが、当日は統合する花輪・小坂両校の生徒代表をはじめ多くの方々にご来場いただき、大変充実した発表会にすることができました。講評は関厚鹿角市長にお願いし、「かづの学」のような行動力をともなう学問の大切さや、鹿角高校へのふるさと教育の継承と充実を期待するあたたかな励ましのお言葉をいただきました。

ふるさと教育の継承と充実という点では、小坂高校でも1月に課題研究発表会が行われ、「ありがとう小坂町」の思いと工業科の知識や技術が込められた素晴らしい研究に触れることができました。開会式での佐藤貴文校長先生のあいさつでは、「鹿角高校では、十和田高校の『かづの学』のような普通科の生徒の発想を産業工学科の技術で具現化したり、産業工学科がつくったものを普通科が活用方法を見出して発信したりするような共同研究ができれば大きな魅力になる。」と、鹿角高校での協働的な探究活動に対する期待が述べられ、大いに感銘を受けました。

十和田高校とともに「かづの学」が今年度で最後となることは大変残念でありませんが、私たちは、これまでに積み重ねた研究やふるさとへの思いをここで途絶えさせず、鹿角高校の活動や地域の未来に引き継ぎ、発展させられるよう更に努力したいと思います。これまで地域の皆様や多くの方々から本校に寄せていただいたあたたかなご支援やご協力に心より感謝を申し上げ、巻頭の言葉といたします。

「かづの学」から学んだこと

生徒会長 佐藤 結衣

今年度、「かづの学」は10回目の実施となりました。5月からグループごとに分かれ、テーマに沿って活動に取り組んできました。グループによっては、講師の方をお招きして講話を聴いたり、実際に体験したりなど、どの班も活発に活動を行ってきました。「かづの学」の活動を通して、鹿角の魅力を再発見することができたのはもちろんですが、地域の方々との交流を深めることができました。

私は、かづの学では「鹿角茜染伝承隊Ⅱ」という講座で活動しました。「茜染」とは、鹿角地域で古くから伝えられる草木染のことです。「アカネ」という植物の根を使って染めた色は鮮やかで、とてもきれいです。ですが、茜染を行うにあたり、課題が多くありました。それは、染めの技法が難しいことや、発色がきれいになるまで数年かかること、高齢化によって技術を伝承する人が少なくなったことなどです。今年度は、実際に茜染体験を行ったり、染めた布でつまみ細工のコサージュを作って販売をしたりするなど様々なことに挑戦しました。このような活動ができたのは、地域の方々の支えのおかげだと思います。活動を通して、地域の方々から多くの応援の声を受け取りました。この応援の声が私達、「鹿角茜染伝承隊Ⅱ」メンバーの励みになりました。この紙面を借りて、「かづの学」の活動を支えてくださった多くの方々に心から感謝申し上げます。

代々引き継がれてきた十和田高校の「かづの学」は今年度が最後でしたが、それぞれのグループが鹿角の良さを探究し、最後を飾るにふさわしい発表会になりました。来年度からは「鹿角高校」としての活動が新たに始まります。十和田高校としての歴史は今年度で幕を閉じますが、今後は花輪高校と小坂高校の生徒の皆さんと様々な探究に挑戦していきたいです。また、地域の方々との繋がりをこれからも大切にし、鹿角の魅力をより一層多くの方々に伝えられるよう頑張っていきたいと思っています。

表紙写真

- 左上 「おいしいかづの～まんぷく編～」 そば畑見学
- 右上 「鹿角茜染伝承隊Ⅱ」 鹿角茜染め体験教室「なでしこ塾」
- 左下 「1年毛馬内盆踊り」 毛馬内盆踊り本番
- 右下 「つるし雛」 つるし雛作品「大根、茄子等」

目 次

巻頭言	校 長 深 井 裕 之	1
「かづの学」から学んだこと	生徒会長 佐 藤 結 衣	2
目 次		3
令和5年度 ふるさと教育「かづの学」全体計画		4
各講座の研究		
【口頭発表】		
1 北限の桃		5
2 鹿角の食 けいらん		7
3 毛馬内盆踊り		9
4 鹿角茜染伝承隊Ⅱ		11
5 鹿角P R動画制作 Final		13
【ポスター発表】		
1 鹿角地域に特徴的な動植物の生態について調査する①		15
2 鹿角地域に特徴的な動植物の生態について調査する②		16
3 つるし雛		17
4 おいしかづの～まんぷく編～		19
5 鹿角の食 かづの牛		21
6 鹿角の食 スイーツ		22
7 鹿角地域に特徴的な動植物の生態について調査する③		23
8 鹿角地域に特徴的な動植物の生態について調査する④		24
令和5年度 ふるさと教育「かづの学」公開研究発表会		
公開研究発表会の概要		25
公開研究発表会の様子		26
参観者のアンケートから		27
生徒のワークシートから		28
令和5年度 ふるさと教育「かづの学」指導者・協力者		29
編集後記		30

令和5年度 ふるさと教育「かづの学」全体計画

秋田県立十和田高等学校 校訓



純真謙虚な気持ちで人に接し、
青年としてまた生徒としてふさわしい気品のある態度で行動する。



正しい事である限り、敢然勇氣を以て当たり
何事に対しても不撓不屈の精神を以て努力する。

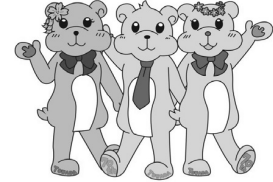


何事にも辛抱強く、
人に接するに仁を以てし、寛容の心を以て物事を処理する。

学校の教育目標

- 1 心身の鍛錬と調和を図り、21世紀をたくましく
生き抜く力の育成に努める。
- 2 基礎学力を向上させ、積極的に探究する姿勢
を身につけさせる。
- 3 進路目標達成を目指して、情報化・グローバ
ル化社会に対応できる人材を育成する。
- 4 ふるさとの伝統や文化を理解し、多様な価値
観をもつ人々と共生できる感性豊かな人間を
育成する。

キャラクター



テーマ	教科の取り組み
鹿角の人物	・郷土の偉人について調べ、その偉業や作品 について発表する。 ・郷土の方言について調べ、発表する。
鹿角の自然	・自然環境を調査し、生物学的に研究、発表 する。 ・身近な地形の学習を通して、防災に対する 意識を高める。
鹿角の産業	・農・鉱工業などを調査し、発表する。 ・毛馬内・花輪地区商店街を調査し、ホーム ページ等で紹介する。
鹿角の文化	・郷土の名所、名産、伝統行事などを英語で 表現する。 ・鹿角の衣・食・住・文化・伝統を調査し、発 表する。 ・郷土料理のルーツを探り、調理する。 ・鹿角の特産品を使った商品開発をする。

地域の活性化に 貢献できる 生徒の育成

「ふるさと教育」目標

- 1 ふるさとの素晴らしさの発見
- 2 ふるさとへの愛着心の醸成
- 3 ふるさとに生きる意欲の喚起
- 4 ふるさとについて発信する力

テーマ	分掌の取り組み
勤労・奉 仕・協働の 精神の育成	・体験的活動に参加するのにふさわしい 態度及び社会人になるための基礎的 素養を身につける。 ・他者との協力や奉仕の精神、地域社会 の一員としての自覚や、郷土愛を身に つける。 ・儀礼的行事を通し、本校及びふるさとの 伝統や良さを再認識する。
生徒の活 動への支 援	・毛馬内盆踊り同好会の高文連発表会へ の参加を継続する。 ・生徒が参加する地域行事やボランティ ア活動を年間行事へ位置づける。 ・教科の年間指導計画においてふるさと 教育を位置づける。 ・郷土の歴史や偉人に関する本の紹介を する。

総合的な探究の時間

- ・1年生は、前半に学年全体で鹿角の文化や産業等を広く
学び、後半に3つのグループに分かれてテーマを設けて
研究を行う。
- ・2・3年生は、教員が開設したいいくつかの講座のうち1つを
選択して所属し、それぞれテーマを定めて研究する。

<令和5年度開設講座>

- 1 鹿角PR動画制作Final
- 2 鹿角茜染伝承Ⅱ
- 3 鹿角地域に特徴的な動植物の生態について調査する
- 4 おいしいかづの～まんぶく編～
- 5 つるし雛

各学年の取り組み

1学年	・毛馬内盆踊り講習会を実施し、毛馬 内盆踊りへ参加する。 ・職場見学や経営者講話をととして、 地元企業への理解を深める。
2学年	・修学旅行において、旅行先の文化や 風土を学び、鹿角との相違点を見いだ し、地元の魅力を再確認する。
3学年	・郷土に関する事物の特徴を再認識し、 郷土の文化を発信する。

生徒会執行部

- ・生徒会行事において、ふるさと教育に関する企画・
運営を行う。
- ・生徒会誌、生徒会だより等に郷土の情報やふるさと
教育に関する生徒の活動を掲載し広報活動を行う。

学校行事

- ・毛馬内盆踊り講習会を継続実施し、毛馬内盆踊
りへ参加する。
- ・高文連郷土芸能・日本音楽合同発表会で披露す
る(毛馬内盆踊り)。
- ・郷土についての講演会を行う。
- ・かづの学の成果を十高祭で公開する。
- ・かづの学の公開研究発表会を開催する。

代表者 1A 本 間 聖 豪
指導者 小 塚 卓 人

I テーマ設定の理由

「桃」の産地としては、岡山、福島などが代表的で、暖かい地方で少なくとも、ここ鹿角よりは雪が少なく、暖かい土地で収穫されている。そのような「桃」が、なぜ、ここ鹿角で栽培されるようになったか？実際どのように食されているのか？などを知りたいと思いこのテーマを設定した。

II 調査・研究内容

1 鹿角果樹センターの講話

「鹿角の桃」についての概略を学ぶため、鹿角果樹センター班長 熊谷 一 先生より講話をしていただいた。その中で、鹿角では柑橘系以外の様々な果樹が栽培されていること。その中で中心はリンゴである。リンゴは明治9年に盛岡から苗木を持ってきて栽培し、明治19年から本格的に始めたこと。「桃」の場合は、鹿角の農家の方が、長野にリンゴ栽培の研修に行った際、長野で桃を栽培しているのを見て、この鹿角でも「桃」を栽培してみようと始めたことが最初で、徐々に栽培する人が増えてきたことがわかった。

2 「北限の桃」の由来と歴史について

一般的に「北限の桃」というと、東北限定の「北」を取って北限だとか、栽培地域の北方の限界だから北限と思っている人が多いと思いますが、実は「市場出荷時期が全国で最も遅い産地」という意味で名付けたものです。そもそも鹿角の果樹栽培はリンゴを主体に明治19年から始まりました。一方桃は、平成6年から一部の農家で栽培が始まり、平成12年からこの鹿角地域での桃の栽培適応性が確認されて本格的な栽培が始まりました。

3 「北限の桃」の現在について

現在「北限の桃」の生産者133名、出荷量は

350トンです。また、平成25年には「北限の桃」で商標登録されました。

「北限の桃」の特徴は本州で最も遅い時期に収穫される桃です。主力品種は「川中島白桃」という品種です。ゆっくり熟して、遅い時期に収穫されるため、食感や甘みが極上なため自宅用、またご贈答用に喜ばれています。

「北限の桃」は、「北限の桃ジュース」、「ロールケーキ」「プリン」「カレー」などの加工品や料理に使用されています。



また、出荷は県内だけでなく、日本全国、海外では台湾まで行われ、販売されています。

4 「北限の桃」の今後について(まとめに代えて)

現在「北限の桃」は、直接食べるだけでなく、ジュースやリキュールなどの飲み物、クッキー、ロールケーキなどの洋菓子、羊羹や大福などの和菓子、その他にカレーなどの食材として幅広く利用されています。また、販路も全国に拡大しており、海外では台湾にも販売されています。

しかし、「北限の桃」という桃が全国に知れ渡っているかといえば、そうではなく、桃というと「岡山」「福島」、関東では「山梨」という答えが返ってきそうです。では、この「北限の桃」を全国区するため、また、海外により多くの販路を拡大するためには、これから何をしていくと良いかを考えてみました。

① SNSを使う

- ・「北限の桃」自体のおいしさを食べた人の多くに発信してもらえるようにする。
- ・「北限の桃」を使ったインスタ映えのするスイーツを考案し、地元を中心に多くの人に発信してもらう。

② お菓子に利用してもらう

- ・中高生が日頃よく食べるお菓子の具材の1つとして採用してもらい、パッケージに「北限の桃」と書いてもらう。



このようなお菓子に「北限の桃」が入っているといいですね！

③ 海外への販路を拡大する

- ・具体的にどのように広めていくかはまだ、具体的には思いつきませんが、桃は特に中国では長寿などを表すとてもおめでたい食べ物とされ、大事に食べられているそうです。そのような国（中国は人口も多い）に輸出できると良いと思います。これを足がかりに東南アジアや南アジアなど人口の多い国へ拡大していけると良いと考えます。

「北限の桃」を鹿角から東北、全国、世界へ広げましょう。



「北限の桃」

代表者 1 A 田 中 さくら
指導者 長 崎 純 一

I テーマ設定の理由

けいらんは鹿角の郷土料理の1つである。けいらんとは、あんを包んだ餅が入ったお吸い物で、団子が鶏の卵に似ていることから名付けられた。精進料理のお吸い物として作られてきた行事食で、通常、白いけいらんを二つ浮かべるが、おめでたい時は食紅でピンクに染め、紅白のけいらんを作ることもある。現代では学校給食にも時々出ている。私たちはけいらんの魅力を伝えるために、けいらんの歴史を調べたり、実際にけいらんを作ってみたりした。

II 調査・研究内容

1 けいらんの歴史

稲刈りが終わり、農作業が一段落する11月には「秋仕舞い」の風習がある。隣近所や親戚らを招いて、米づくりが無事に終わったことを祝い、一年の農作業を労ってごちそうを振る舞う。「けいらん」は、秋仕舞いのごちそうの中でも人気のある料理。秋仕舞いの夜の酒盛りの際には一回り大きくつくった「けいらん」を茶碗一杯に盛り、にぎやかに食べるならわしもある。

鹿角市にある尾去沢鉱山は上方（かみかた：現在の大阪、京都を初めとした昔の都や皇居に近い地域）と交易があったため、江戸時代に禅宗の精進料理の一つとして京都から伝わったと言われている。当時、貴重な胡椒も交易で取り入れたと言われており、気候の関係で稲を水で栽培することが難しい当地では祝い品として重宝されていた。

2 鹿角のけいらんについて

けいらんは鹿角、岩手の遠野、青森の下北などの旧南部藩領に伝わる料理で、団子はこしあん入りのもち米団子という点が共通点で、味付けは地

域によって異なる。鹿角のけいらんは、団子の中にクルミと胡椒が入っている。クルミのカリッとした食感とピリッと香る胡椒が特徴的な味だ。

3 けいらん作り

実際にけいらんを作ってみた。

【団子作り】

- ① こしあんを10等分にし、くるみを入れて丸める。
- ② こしょうを皿に振り入れて、①に少々つける。
- ③ 白玉粉をボウルなどに入れ、水溶き片栗粉を少しずつ加えて 耳たぶくらいの柔らかさになるまでこねて10等分にする。
- ④ ③を丸く伸ばし、②を卵のようにくるむ。
- ⑤ お湯を沸かし、沸騰したら④を茹でる。浮いてきたら冷水にとる。



団子作り

【汁作り】

①かつお節と昆布で出汁をとり、薄口しょうゆと塩で味付けをする。



作り方は簡単でしたが、味付けが難しかった。



完成！

【作った感想】

- ・思ったより簡単に作れた。
- ・白玉が柔らかくてあんこが包みにくかった。
- ・汁の味付けが難しかった。

【食べた感想】

- ・甘塩っぱくて美味しかった。
- ・団子がもちもちしていた。
- ・舞茸のだしが出ていて美味しかった。
- ・しょっぱい汁に甘い団子がよく合った。
- ・あんこが足りなかった。
- ・胡椒が多いのがあった。
- ・汁の味が濃かった。

Ⅲ おわりに

今回、けいらんを調べ、地域によって味付けや具材が異なる事が分かった。他の地域の味付けや具材が異なる事でどんな味になるのか、鹿角のけいらんとどのように違うのかを比べてみたいと思った。また、実際に作ってみると思ったよりも簡単に作ることができると分かった。そして、アレンジもたくさんできるのではないかと思い、もしまた作る機会があったらあんこの代わりにチョコレートを入れてみたり、けいらんのみのおまんじゅう型を作ってみたいと思った。

以前、「サロン・ド・割烹 美ふじ」の女将さんが私達に郷土料理についての講話をしてくれた際に郷土料理の一つである「けの汁」を振る舞ってくれた。今回のけいらんのように私達が知らない郷土料理がまだまだあると思うのでそれについて調べてみたいと思った。

【口頭発表3】

毛馬内盆踊り

ー風流踊り 西馬音内盆踊りとの比較ー



はじめに

毛馬内盆踊りは情緒豊かで優雅な盆踊りとして、西馬音内の盆踊り（羽後町）、一日市の盆踊り（八郎潟町）と合わせて、秋田県の三大盆踊りの一つとされている。平成10年12月に国の重要無形民俗文化財に指定され、令和4年11月にはユネスコ無形文化遺産にも登録された。十和田高校にとっては地域の誇りとなる伝統行事の一つである。

I テーマ設定の理由

鹿角市毛馬内に位置する本校では、1年生全員が学ぶふるさと教育「かつの学」の研究の基礎として、今年度、「鹿角の桃」「鹿角の食」「毛馬内盆踊り」の3つのコースを設定した。

毛馬内盆踊りを選択した7名には、幼い頃からお盆踊りに親しんできた者もいれば、本校に来て講座や講習会を通して興味を持った者もいる。酷暑の中、3日間行われた「北の盆 毛馬内盆踊り」や「秋田県郷土芸能発表会」等に参加し、盆踊りの魅力について探ってきた。昨年度、風流踊りの一つとしてユネスコ無形文化遺産に登録されたことで毛馬内盆踊りへの注目度も高まっている。そこで、同じく秋田県内で風流踊りの一つとしてユネスコ登録された「西馬音内盆踊り」と比較し、毛馬内盆踊りの魅力についてさらに深く知りたいと考えた。

II 実施計画

- 1 毛馬内盆踊り事前学習（5月30日）
講師：毛馬内盆踊保存会会長 馬淵大三氏
- 2 毛馬内盆踊り講習会（7月18日）
講師：毛馬内盆踊保存会
- 3 北の盆 毛馬内盆踊り参加
（8月21日～23日）
- 4 秋田県郷土芸能発表会参加（11月12日）

代表者 1A 金 沢 月 香
指導者 藤 島 知 歩
岩 澤 利 哉

- 5 調査活動（インターネット、文献等）

III 調査・研究内容

- 1 毛馬内盆踊りについて
※毛馬内盆踊りは篝火を囲んで踊る「輪踊り」の形である。

（1）始まった時期

【大の坂踊り】（太鼓・笛・踊りで構成）

- ・明暦3年に始まったとされる。
- ・京都の念仏踊りの流れを汲み、仏様に手を合わせるような振り付けもある。
→先祖供養の意味合い。
- ・ゆったりとした優雅な踊り。

【甚句踊り】（歌い手・踊りで構成）

- ・約450年前、戦いから凱旋した将兵達を労ったのが始まりとされる。
「戦い」＝南部氏 vs 安東氏
「凱旋」：戦いに勝って帰ってくること
- ・豊年満作を願う意味合いの唄などが唄われる。

大の坂踊りに甚句踊りが加わり、「毛馬内盆踊り」の現在の構成が成立したとされる。

（2）風流踊りとは何か

「華やかな、人目を惹く、という『風流』の精神を体現し、衣装や持ち物に趣向を凝らして、歌や笛・太鼓・鉦などの囃子に合わせて踊る民俗芸能のこと。盆踊りや小唄踊り、太鼓踊り等、各地の歴史や風土に応じて様々な形で継承されてきた。

【毛馬内盆踊りも風流踊りの一つ】

令和4年にユネスコ無形文化遺産に登録されたのは全国で41件。秋田県からは2件。

(3) 盆踊りはなぜ夜に行われるのか

夜 = 神聖で神秘的な時間

→ 神様（ご先祖様）が来臨する
と考えられた。

お盆の時期に来臨したご先祖様を歓待し、送り出す、と考えることが日本の「盆踊り」の基本的な構造と言える。

2 毛馬内盆踊りと西馬音内盆踊りの比較

(1) 衣装

毛馬内盆踊り

男性：紋付きなどの正装

女性：留め袖や訪問着

男女共通

：・頬被り

＜性別や身分等がわからないように
するため、仮装 等の説がある＞

・しごき（飾り帯）

・蹴出しが見えるように着付ける

男性：水色 女性：鶺鴒色

お囃子：半纏、はちまき

西馬音内盆踊り

【着物】

女性：端縫い（はぬい）

・絹布を4～5枚、左右対称に縫い合わせた
着物。

・元々は裕福な人だけが仕立てられた。

・母から娘へと受け継がれる「一人前の踊り
手」の証。

男女兼用：藍染め（あいぞめ）

・最も一般的な着物

【被り物】

編み笠（あみがさ）

・西馬音内盆踊り最大の特徴

・一般的な半月型より前後の端が大きく反っ
た形をしている。

・端縫いでも藍染めでも着用可

彦三頭巾（ひこさずきん）

・目元に穴の開いた袋状の覆面を頭から被
り、はちまきでとめる。

・由来は諸説ある。農作業の日よけ、虫除け
の黒布、歌舞伎の黒子をヒントにした 等

・必ず藍染めを着用する。

・「亡者踊り」と言われる要因の一つ。

(2) 楽器の編成

毛馬内盆踊り

・太鼓 ・横笛 ・甚句の歌い手

西馬音内盆踊り（樽の上で演奏する）

・笛 ・三味線 ・大太鼓 ・小太鼓

・鼓 ・鉦 ・地口や甚句の歌い手

(3) 踊りの構成

毛馬内盆踊り

1. ー (1) 参照

西馬音内盆踊り

【音頭（地口）】

・1番と2番を繰り返す、優雅で静かな抑揚
のある踊り

【がんけ（甚句）】

・音頭に比べてテンポが速く、甚句が歌われ
る。

・2番まであり、2番の輪を描くように横に
一回転する踊りは「輪廻転生」を意味する
とも言われる。



(4) 共通点と相違点

【共通点】

・町中で、篝火を囲んで踊ること。

・着物を着て踊るという雰囲気。

【相違点】

・踊りのテンポや振り付けの多さ

・楽器の数や演奏する場所

→西馬音内盆踊りの方が華やかに感じる

・太鼓の大きさ

・被り物



IV おわりに

町中で先祖をお迎えするために篝火をたき、それを囲んで踊ることで幻想的な雰囲気になる、ということは「盆踊り」という点で共通していると言える。しかし、「盆踊り」と一口に言っても、被り物やリズム、衣装に対する意味合いが違うことなど、比較することで毛馬内盆踊りについてより深く知ることができた。

8月や11月に実際に着物を着て毛馬内盆踊りを踊った時には、着物の動きづらさや暑さなど、やってみて分かることも多かった。そして何より、そういう皆で踊りきったという達成感はやらなければわからないことだと思う。伝統芸能としての価値はもちろん、地域の人たちとの繋がりを生む、という点でも大切なものなのだと改めて感じた。この魅力を多くの人に知ってもらうためには何ができるかを、これから考えていきたい。



【口頭発表4】

鹿角茜染伝承隊Ⅱ

～高校生の想いを茜色にのせて～

代表者 3B 湯 沢 優 心
指導者 田 島 智香子
能 島 直 美

I 題目設定の理由

私たちの住む鹿角には、いにしえから伝えられる草木染の文化があります。そのうち、鹿角紫根染をイメージした紫色は、地区の小・中学校の体育館式幕や体育着等に用いられており、統合校の制服にも取り入れられることになりました。一方鹿角茜染は、私たちの生活の中で目にする機会があまりありません。紫根染の原料であるムラサキに比べ、茜染の原料のアカネは、鹿角地域にまだ多く自生しており、原料が手に入る状態であるにも関わらず、なぜその存在が注目されないのか、私たちの研究はこの疑問がきっかけとなりスタートしました。

鹿角の染めの伝統文化は2度も途絶えているそうです。染めの技法が難しく、きれいに発色するまで数年かかること、体力も必要な上、高齢化が進み、技術を伝承する人が少なくなったこと、また経費がかかることなどが要因として考えられます。鹿角市の人口は約 27,000 人、高齢化率は約 43%と、地域住民の半数近くが高齢者という状況です。こうしたことから、これまで地域に守り育てられてきた私たちが、地域の伝統文化を次世代に守り伝える役割を担う必要があるのではないかと、新しい制服で次世代に引き継がれる紫根染と共に、茜染の魅力も伝え広げたいと考え、本テーマを設定しました。

II 実施計画

鹿角茜染の普及・伝承に向けた取組を、2022 年～2024 年までの3カ年計画で行うことにしました。

- 1 年目：染めの技術を学び、体験教室を開催。
- 2 年目：課題を見直し、「技法」「魅力・価値」の視点での研究。
- 3 年目：地区の小・中学生、地域住民との協働による伝承活動。

III 実施状況

1 実態の把握

(1) 認知度調査

鹿角茜染の認知度調査をしたところ、鹿角地区以外の高校生には、ほとんど知られていないこと

が分かりました。一方、本校生徒の中には、小・中学校の授業で茜染体験をしたことのあるという生徒が一定数おり、多くの生徒が茜染を知っていました。

(2) 日本アカネの調査

日本アカネが野山に生息していると聞き、地域の方々に協力してもらい、調査しました。5人で1時間ほど作業し、アカネの根を81g採取することができましたが、これはハンカチを1枚染められる程度の量であると知り、原料の入手には手間と労力が掛かることを痛感しました。

2 伝承活動のための予算検討

鹿角茜染体験教室を開くには、高額な材料費を参加者からいただくことになるため、参加者が限られることが予想されました。そこで、十和田市民センターに相談に行き、地域文化を継承したいという私たちの思いを伝え、協力を得ることができました。

3 実践活動 I

実態調査から、鹿角茜染の文化を継承するには、伝統文化の「体験」だけでなく、材料の入手や染めの技法の「習得」を組織的に展開していくことが重要であると考えました。そこで、研究1年目は、技法の確実な習得に向け、鹿角紫根染・茜染研究会の關幸子会長から、鹿角の紫根染・茜染の歴史や古代染めの技法を学びました。

(1) 「技法」「価値・魅力」の視点での研究

昨年度の研究を通して、いにしえの技法の習得には繰り返し実践することが必要であること、そして茜染本来の、鮮やかな色を出すには「寝かす」ことが重要であることなどを学びました。そこで今年度は技法習得のための取組を継続するとともに、価値の伝承の面からも研究を進めることにしました。

①技法習得・伝承班

1) 染めの技術を継続的に学ぶ

鹿角紫根染・茜染研究会の御指導の下、染めの技術を学ぶとともに、染液作りにも挑戦しました。

2) 「寝かせ」と保管場所

昨年度の研究で、古代式茜染の完成には1～2年の歳月がかかるといわれるように、茜の優美な色と「寝かす」ことの関連を知りました。そこで、染めた布の保管条件を変えて、発色との関係を調査することにしました。「室内（布のまま）」、「室内（ビニール袋に入れて）」、「収納棚」、「桐箱」の4つの条件で、令和4年8月～令和5年8月までの1年間での発色の変化を確認しました。わずか1年でも、桐箱に入れていた布は茜色の美しさが増していました。

②価値・魅力伝承班

1) 茜染の価値の調査

鹿角茜染体験教室でストール1枚を染めるためには、体験料として5,000円程度かかり、鹿角紫根染・茜染研究会で製作したストールは15,000～30,000円で販売されています。布は絹100%、椿灰で灰汁汁を作り、その灰汁汁で下染を5回行い、半年以上寝かせます。その後、本染を2～3回行いますが、古代式では10回本染、その後、十分に寝かせたものが商品となるため、完成には1～2年の歳月を要することを考えると、相応の価格であることを教えてもらいました。

2) 茜染の価値を踏まえた伝承方法の検討

価値の調査を踏まえ、鹿角茜染を伝え、広げるには、特別な場面で使用する「雅」を印象付けられるものとして、何か製作し発信できないかと検討を重ねました。そして、成人式、結婚式、そして来年度の統合校の式典などで用いるものが適すると考え、製作する作品の検討を行いました。

4 中間評価

茜染の発色と「寝かせ」の関係を確認することができました。桐箱は通気性がよく、湿気を調節する役割があり、防虫効果もあるといわれています。これらの関連性を、他の保管方法で継続研究し、現代の家庭生活にあった保管方法を探る必要があると考えました。

また、茜染が高価である理由を知り、その価値を大事にした伝承方法を模索する必要があることに気付くことができました。

5 実践活動Ⅱ

（1）技法習得・伝承班

①「彩る街鹿角茜染体験」への参加

鹿角茜染の伝承に必要な、絞りの指導方法や染め体験での説明内容などを学ぶために、鹿角紫根染・茜染研究会が行う「彩る街鹿角茜染体験」のスタッフとして参加させていただきました。

②PTA研修会、なでしこ塾での伝承活動

昨年実施した「なでしこ塾」での活動が新聞に掲載されたことで、PTA研修会（11月11日）

で、私たち、鹿角茜染伝承隊による茜染体験を行いたいとの依頼を受け、講師を務めることができました。また、今年も十和田市民センターの「なでしこ塾」（12月2日）で、鹿角茜染体験教室の講師を務め、地域住民に鹿角茜染の魅力を伝えると同時に、私たち自身の技能習得に向けた体験を重ねることができました。

（2）価値・魅力伝承班

①鹿角茜染のつまみ細工の作成・商品化

私たちが今年染めた布は、まだ色が落ち着かず、伝統の色にはなっていません。そこで、鹿角紫根染・茜染研究会の方々が以前に染めて保管していた布をいただき、伝承活動に活用させていただくことにしました。コサージュを中心に、ハレの席で身に付けられるものを製作し、商品化に向け、多くの人が集まる、道の駅おおゆへ交渉に行きました。製作したつまみ細工に価格を付けていただくと、大花を7,000円、小花を1,500円と、適正価格で販売させていただけることになりました。

②タペストリー製作

1年生全員に、鹿角茜染体験を兼ねて、創立80周年記念式典に展示するタペストリー製作に取り組んでももらいました。式典後、すぐに寝かせて、より美しい茜色になったものを来年度の統合校開校式典に飾りたいと考えています。

6 まとめと今後の課題

「朝は紫、夕べは茜」と賞される鹿角伝統の草木染の真の美しさは、簡単に出せるものではありません。しかし、3カ年計画の2年目となる今年、鹿角茜染を広める活動は実を結び始めました。茜染の、年を重ねるごとにその魅力を増すという性質を生かし、統合校で代々引き継がれるものを作成できないか、地域の小・中学生と協働するなど、若者のネットワークを構築したい、科学的な視点から染めの技を見直すことはできないか、など私たちの構想はどんどん膨らんでいます。今後も、高齢化、過疎化の進む地域にあってこそその継承活動を、地域住民一体となって進めていきます。



代表者 3A 佐藤大東
指導者 神居恵悟
岡本愛那

はじめに

本講座は、秋田朝日放送主催「あきたふるさと手作りCM大賞」への作品出品を通して、鹿角の魅力の再発見とその発信を目的に活動を行っている。今年度は講座開設5年目となり、かづの学としても最後の1年となる。昨年度から受講しているメンバーを中心とした3年生グループと、今年度、動画制作初挑戦となる2年生グループの2つに分け、ふるさとCMの制作と発表用動画の制作を行った。

I テーマ設定の理由

昨年度までの4年間の積み重ねをもとに、ふるさとの魅力発信のための題材設定と、発信方法の工夫について探究するため、本講座のテーマを設定した。昨年度までの審査会での評価を踏まえ、テーマ設定、構成、ストーリーの作り方などについて考えたり、鹿角市の食品、観光、人的資源など、様々なPRポイントを洗い出し、これまでの受賞作品の傾向を調べ、計画的に作品を制作したりといった活動を通じて、「効果的な魅力発信」というテーマについて深く探究することを目的とした。また、かづの学公開研究発表会に向けて、CM作品の制作過程そのものを一つの動画作品として制作し、発表することで、「魅力を発信するための探究活動のプロセスそのものをコンテンツ化する」という二重の発信活動として、ふるさと鹿角の資源、そしてその資源を発信する人材をPRするという、活動そのものの価値を探ることを、2つめの探究テーマとした。



II 実施計画

5月	9日	オリエンテーション
	23日	テーマ決め・役割分担 ・構図決め
	30日	
6月	20日	PR動画撮影・編集
7月	11日	
夏休み		PR動画撮影・編集
9月	5日	
	19日	ふるさとCMロケ・撮影
10月	4日	
	10日	
	24日	ふるさとCM&発表用動画 撮影・編集
11月	7日	
	21日	
	26日	ふるさとCM大賞公開審査会
12月	12日	発表用動画撮影・編集
	19日	発表リハーサル
	20日	かづの学公開研究発表会
1月	16日	まとめ

III 調査・研究内容

(1) 動画制作について

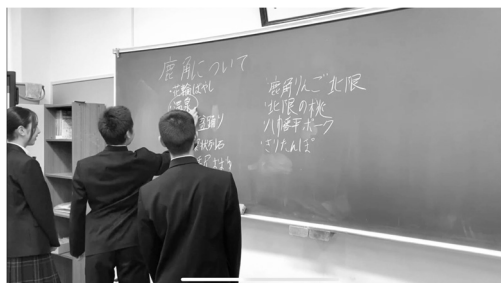
① ふるさとCM

過去5年間に鹿角市が設定したCMのテーマや、受賞歴がある自治体が作成したCMのテーマ・映像の作り方を参考にすることで、過去に評価されたふるさとCMの傾向や、ふるさとの魅力発信方法について分析し、魅力的なCM作成について考えた。今年度は「鹿角の温泉」をメインテーマに設定した。タイムスリップした一人の男が、若返り効果がある鹿角の温泉につかることで元気になっていく、といったようなストーリー仕立てにすることで、「温泉の特徴の紹介」という内容に高校生らしさを押し出した作品にすることを心がけた。



② 発表用PR動画

CM制作活動における、テーマの話し合いやロケ、編集の様子をBGMとともにメイキング映像として撮影・編集した。「十和田高校生的一天」と題し、登校から下校までの学校生活のイメージをもとに、ふるさとCMを制作する流れを動画にまとめた。



(2)ふるさとCM公開審査会

ふるさとCM公開審査会では、3年A組佐藤大東、西村桜羅の2名が発表者として登壇し、鹿角市のふるさとCMについてのプレゼンインタビューへの受け答えを行った。審査員からは、タイムスリップと若返りというアイデアについて評価をいただき、審査結果では、入賞は逃したものの、「湯けむり賞」として、秋田朝日放送で1年間の放映権を獲得した。



(3)かづの学公開研究発表会

発表用PR動画の上映と、本研究の成果を発表した。来賓代表として、関市長から講評をいただき、鹿角市の魅力の発信について、高校生が主体的に活動することについて評価をいただいた。



Ⅳ おわりに

5年間「動画」という魅力発信の可能性について探究を重ね、ふるさと鹿角のPR資源にはまだまだ十分に発信されていないものがあるということや、方法の工夫によって、ふるさとのPR効果をもっと高めることが出来るのではないかと感じている。また、高校生などの鹿角市に住む若者が、故郷の魅力について考え、その発信の役割を担うことによって、多様な感性や視点からの魅力発見、発信につながり、鹿角の未来を明るくすることができるのではないかと感じている。

最後に、今回の活動にご協力頂きました鹿角市役所産業活力課の皆様、株式会社秋田朝日放送の皆様、本当にありがとうございました。



【ポスター発表1】 鹿角地域に特徴的な動植物の生態について調査する①

—海ごみゼロ！川を流れるごみの漂流軌跡を調査する—

代表者 3B 成田 叶 夢
指導者 櫻庭 洋

I はじめに

本校では「CHANGE FOR THE BLUE ごみ拾いプロジェクト 2023」に参加し、5月に地域のクリーンアップを行っている。この活動を通じて、ごみを拾うことによって海をきれいにすることができると思う機会を得た。川でのごみの漂流の仕方を調査することにより、生態系保全に役立てることができるのではと考え、この研究に取り組んだ。

II 目的

米代川におけるペットボトルごみの漂流軌跡を明らかにする。

III 実施計画

5月	オリエンテーション
6～8月	今年度の研究計画の立案と情報収集
9月	漂流フローターの製作
10月	漂流経路記録方法の検討
11月	発表用ポスターの制作
12月	発表
1月	まとめ

IV 研究内容

方法1 「漂流フローター」の製作

〔材 料〕

- | | |
|----------------|-----------|
| ・ペットボトル（600mL） | ・ジップロック |
| ・防水アルミテープ | ・緩衝材 |
| ・蛍光オレンジテープ | ・iPhoneSE |
| ・モバイルバッテリー | ・接続ケーブル |

〔作り方〕

- ① iPhoneとモバイルバッテリーを接続ケーブルにつなぐ。
- ② ①をジップロックで密閉し、防水する。
- ③ ②に緩衝材で巻き、漂流中の衝突の衝撃を和らげる。
- ④ ペットボトルを2つに切り、中に③を入れ、防水アルミテープでペットボトルの切れ目を塞ぐ。
- ⑤ 回収する際に見つけやすいように蛍光オレンジテープを巻く。

方法2 漂流経路の記録

- ①「漂流フローター」による漂流軌跡の記録
・GPS記録アプリ「ふらりと記録」を起動し、漂流開始から回収までの漂流軌跡を10分ごとに記録する。
・漂流軌跡は、右図のようにマップ上に表示される。
- ②「漂流フローター」を回収するための監視
・「iPhoneを探す」の機能を使用し、「漂流フローター」の現在地を特定する。



Fig.1

Fig.1 漂流フローター



Fig.2

Fig.2 「ふらりと記録」の画面



Fig.3

Fig.3 「iPhoneを探す」の画面

V 考察

「漂流フローター」の製作は、浸水することなく、水にしっかりと浮くことができたことから、非常に良いできであったと考えている。

GPSを利用した漂流軌跡の記録方法については、構想段階で「低予算で製作すること」「できるだけ正確な位置情報を記録すること」を心がけてアイデアを考えた。しかし、iPhoneの型が古すぎたためにSIMが機能せず、GPSを働かせることができなかった。もう少し新しいiPhoneを手に入れることができれば、補助バッテリーが不要になることによって「漂流フローター」を軽量化できた可能性がある。また、機種が新しくなることにより記録精度の向上が期待できたかもしれない。

【ポスター発表2】 鹿角地域に特徴的な動植物の生態について調査する②

—鹿角市十和田末広地区に飛来するカワウの個体数と飛来地域の調査—

代表者 2 A 目 時 颯
指導者 渡 邊 一 郎

I はじめに

鹿角市は米代川の上流に位置する街であることから河川の水質も非常によく、奥入瀬溪流などは観光地としても有名である。10年ほど前から米代川流域においてカワウの飛来が確認され、北秋田市から大館市まで北上し、アユの食害やねぐら付近の糞害が問題視されてきた。昨年には鹿角市内まで侵入している様子が確認されていた。

そこで鹿角市内を流れる米代川のどこまでカワウが上ってきているのか、またどれだけの個体数があるのか、調査することにした。

II 目的

鹿角市内を流れる米代川に飛来するカワウの個体数と飛来地域を明らかにする。

III 実施計画

5月 オリエンテーション
6～7月 今年度の研究計画の立案と情報収集
7月～10月 米代川流域の巡検
11月 発表用ポスターの制作
12月 発表
1月 まとめ

IV 調査内容

○場所 鹿角市十和田末広地区米代川流域

- ① 下モ川原地区
- ② 砂田地区
- ③ 向川原地区

○方法 目視により飛来数を計測した。



Fig.1 調査地

○結果

調査日	調査地	個体数
7月24日(月)	①～②	6～7羽
7月31日(月)	②	7羽
8月4日(金)	② ③	11羽 3羽
9月5日(火)	③	16羽

表.1 各調査地における目視した個体数



Fig.2 7/24(月)調査地①



Fig.3 7/31(月)調査地②



Fig.4 8/4(金)調査地②



Fig.5 8/4(金)調査地③

V 考察

今回の調査では、時間の経過と共にカワウの個体数は増加してゆき、最大16羽のカワウを観察することができた。①下モ川原地区から③向川原地区までの間では定期的に観察することができたことから、この周辺を中心に魚を捕食しているものと考えられる。

秋田県の調査(平成29年)では、捕獲した1羽のカワウの胃にはアユが17匹入っていた。多数飛来するようになれば大量のアユが捕食されることが考えられ、米代川でアユ釣りを楽しむ人々が減るだけでなく、その人達が街に訪れなくなることに伴う観光産業への影響も考えられる。

代表者 3B 佐々木 紅 里
指導者 関 学
土 門 祐 子

はじめに

毛馬内地区はユネスコ世界文化遺産登録が決定した450年あまりの歴史をもつ毛馬内盆踊りが有名である。盆踊りが開催されるこもせ通りでは3月につるし雛祭りも開催されている。つるし雛祭りは毛馬内地区では比較的新しい取り組みであり、地域の人々による新しい文化的な取り組みについて知りたいと考えた。

I テーマ設定の理由

毛馬内のつるし雛は、地元でのサークル活動を通して、地域の活性化に繋がっている活動だと考え、私たちもその作品の製作を体験したいと思った。そこで、毛馬内地区のつるし雛サークル「ぬいっこクラブ」で活動されているお二人の方を講師にお招きして、つるし雛製作に取り組んだ。

作品の製作のほかに、つるし雛の歴史や由来、それぞれの作品が持つ意味についても調査した。

II 実施計画

5月	オリエンテーション
6月～10月	つるし雛の製作 「花」「柏餅」「大根・茄子」 「三角火打」「枕」「鞠」 「巾着」「小花」 つるし雛の紐づけと仕上げ
11月～	各テーマごとの調査 ポスター製作
12月	展示・発表
1月	活動のまとめ

III 調査・研究内容

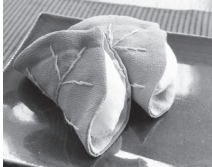
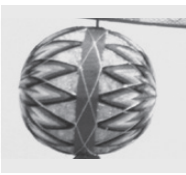
①つるし雛の歴史と由来

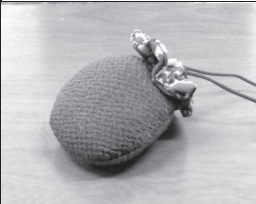
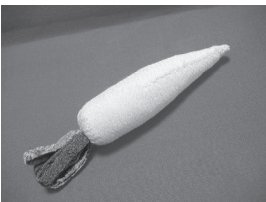
つるし雛が始まったのは江戸時代中頃といわれている。当時の雛人形は高価で、庶民にとってはなかなか手の届かないものであった。そこで人々は生まれてきた子どもの幸せを願い、着物の端切れを使って小さな人形を作って子どもや孫の節句をお祝いしたのがつるし雛の起源とされている。

つるし雛は赤ちゃんの大事なお守りであり、子どもたちが衣食住に困らないようにという親の願いが込められている。

②それぞれの作品が持つ意味

製作した8つのつるし雛の作品について意味や込められた親の願いを調べることができた。

A		花のように可愛く育ちますようにという願い。縁起のいい紅梅・白梅を表現したものも多く、吊るされたお人形の間に配置されるなどつるし雛をより華やかにする。
B		柏餅に使われる柏の葉は新芽が出るまで古い葉が落ちないため縁起が良いとされている。
C		鞠はお正月に飾る縁起物であり、幼子の遊び道具でもある。丸々と円満にはずむ心豊かな暮らしへの願いが込められている。
D		巾着は幸せな人生を歩むように、との願いが込められている。またお金がたまり、「お金に困ることがないように」という意味がある。

E		昔、「薬袋」はすべて三角の形をしていた。この「三角」の形には、“病気に無縁でありますように”との願いが込められている。不運が起こらないように祈るお祓いとしての意味もある。
F		茄子には物事を成す、成し遂げるという意味がある。
G		大根には我が子が健康に育ちますように、という願いが込められている。食物の消化を助ける野菜でもあり、古来より毒消しの意味もある。
H		枕には「寝る子は育つ」の言葉の通り、すこやかに育ってほしいとの祈りが込められている。

③他県で有名な地域

日本三大つるし雛として有名な福岡県の「さげもん」、静岡県の「雛のつるし飾り」、山形県の「傘福」、それぞれの歴史や特徴について調べた。

・さげもん（福岡県柳川地区）

江戸時代末期より、女の子が生まれた家に「初節句のお祝い」としたのが始まり。ひな壇の両脇に飾られ、客人を招いたお祝いの席で披露された。布の端切れで小物を作り、ひとつひとつ袋ものになって物を入れることができるのが特徴。

・雛のつるし飾り（静岡県稲取地区）

静岡県稲取地区は古くから人形などに使われる木工細工が盛んで多くの手工芸品が作られており、その一つとして「雛のつるし飾り」がある。江戸後期から「雛人形」の代わりとして「つるし飾り」が作られ、雛祭りに飾られた。

・傘福（山形県酒田市）

山形の「傘福」は、地域の女性たちが寄り合い、家族が幸せに暮らせるようにと願いながら作った細工物を傘につるし、神社仏閣に奉納したことがはじまりと言われている。細工物を傘につるしたのは、当時“傘の中には魂が宿る”といわれていたことから傘福に 999 個もの細工物を飾るという風習ができた。



④講師の先生へのインタビュー

講師を務めていただいたお二人、田原孝子さんと山崎政子さんにお話を伺った。

Q1 つるし雛を始めたきっかけは何ですか。

（山崎さん）十和田地域づくり協議会の当時の女性部部長が「毛馬内地区に賑わいを取り戻したい」という主旨で手芸サークルに協力の声かけをしたのがきっかけ。

Q2 つるし雛を通して感じたやりがい。

（田原さん）完成した時の満足感や季節ごとに作品を作る楽しみがある。古着を無駄なく利用できる。

（山崎さん）古くなった着物やはし布を利用しているが、古い物をもう一度形にできるのは楽しみでもあり発見でもある。

Q3 つるし雛を始めて良かったこと。

（田原さん）年齢に関係なく、趣味を同じくする友達が増えたこと。

（山崎さん）もしつるし雛を始めていなかったらみなさんと出会うこともなかった。共通の趣味を持つ人との縁がたくさんできた。

Ⅳ おわりに

製作を通じて、子どもの成長を願う親の思いを知り、つるし雛の歴史と伝統に触れることができた。つるし雛は日本の素晴らしい文化の1つとして現代から未来へと伝えていきたいと思った。

毛馬内のつるし雛祭りは、コロナ禍には中止になったそうだが、地域に賑わいを取り戻したいというお話や講師の先生方の取り組みを聞いて、これからも地域を盛り上げたいという思いが伝わってきた。私たち高校生も、盆踊りのような長い伝統を持つ文化を守り継承していくと同時に、このような新しい活動にも積極的に参加し、地域の良さを発信していきたい。

【ポスター発表4】

おいしいかづの～まんぷく編～

代表者 3A 北方 恵 理
指導者 木 村 由 美
中 嶋 豊
佐々木 大 輔

はじめに

鹿角の食文化に関係するかづの学の講座開設のきっかけは、コロナウイルス感染拡大防止のため外出が自粛され、鹿角市にどの程度の経済的影響があったかを調査することだった。その中で、生徒たちがかづの学の学習を通して鹿角地区にある個性豊かな食文化を知っていく様子が見られた。そこから、その生徒が各家庭でその話をするのでPRにつながるだけでなく、自分で体験した鹿角の魅力をずっと覚えていてほしいという願いをこめてこの講座は継続されてきた。

I テーマ設定の理由

- ①地元の特産品を食べることで、地域文化の理解を深めてほしい。
- ②自分たちで作ることを通して、体験の大切さを知ってほしい。
- ③調べたり体験したりすることを楽しんでほしい。

II 実施計画

- 5月 オリエンテーション、鹿角地区の農作物・特産品について調べ学習
- 6月 しそまきあんず製造会社見学
- 7月 けいらん、そば作りについて事前学習
- 9月 そば畑見学
- 10月 けいらん作り
- 11月 そば打ち体験、発表会準備
- 12月 かづの学発表会

III 調査・研究内容

III-1 鹿角地区の農作物・特産品

製造過程を見学に行くことを視野に入れて、鹿角地区の農作物や特産品について調べた。やはりりんごや「北限の桃」、かづの牛のような秋田県内でも人気の特産品が全国的にもよく知られている。きりたんぼ、けいらん、そばなどさまざまな特産品や地元地域の特色ある食品などを調べる中で、十和田高校から非常に近いところで「しそま

きあんず」を製造していることがわかった。生徒の中にはこの学習で初めてしそまきあんずを知ったという生徒もあり、より深く知るよい機会であったので、会社見学に行くことに決めた。

III-2 しそまきあんず

私たちは有限会社刈谷食品へしそまきあんず製造過程の見学に行った。しそまきあんずは保存食として、今でも1つ1つ丁寧に、手作業で製造されていた。

あんずが何か知らなかった生徒もいた中、全員で製造過程を共有し、見学を通して全員が同じ内容を学ぶことができた。中には刈谷食品見学をきっかけに、初めてしそまきあんずを食べたという生徒もあり、地域文化に対する理解が深まった。



III-3 けいらん

小中学校在学中に給食で食べたことがある生徒もあり、また鹿角市花輪にはけいらんを提供している飲食店があるため鹿角市民にとってなじみの深い食品である。調理実習を行い、自分たちで調べたけいらんの作り方に従って実際に製作、試食してみたが、想像していたよりおいしかったという班もあれば、形にならず味もまったくおいしいとは言えないものになってしまった班もあり、「自分の手で実際に作るということは難しい」ということが体験によって理解できた。



Ⅲ－４ そば

耕作放棄地の利用方法として栽培されている「そば」は、鹿角市内の多くの店舗で販売されており、生徒たちの目に触れる機会も多い。「おいしいかづの～まんぷく編～」ではそば畑の見学とそば打ち体験を通して、耕作放棄地の利用の取り組みについて実際に触れた。

農事組合法人大里ファームで運営しているそば畑は年々広がり、そこに携わる農家の人たちも増えてきているようだ。見学した日もそばを植える作業で忙しくしている農家の方が倉庫の中を動き回っていた。

11月末には農事組合法人大里ファームの浅石昌敏さんのご指導の下、生徒担当職員合わせて15人でそば打ち体験をすることができた。初めてそば打ちを体験する生徒も、昨年度1年生の時に1度体験している生徒も、そば打ち体験の日を楽しみにしていた担当職員も、全員楽しくそばを打つことができた。特に、初めてそばを打った生徒たちは、「思っていたより体力がいる」「難しかったけど楽しかった」と感想を寄せてくれた。



Ⅳ おわりに

かづの学研究発表会に向けて、生徒たちが自分たちで発表原稿を作り、ポスターを制作したが、この工程を通して、生徒たちが自分たちの体験を追体験し、思い出が深いものになったと思う。また、実際の発表では聞きに来た他の生徒にクイズを出題するなど、魅力的な発表について実用的な技術を身に付けた生徒もいた。

付け加えると、「おいしいかづの～まんぷく編～」の生徒たちは、鹿角市が行っているかづの高校生広報室にも登録しており、鹿角市と一緒に鹿角市の魅力を発信することができ、調べる力も、発信する力も身に付けることができたと思う。

生徒たちも担当職員も、しそまきあんず会社見学、けいらん作り、そしてそば打ち体験など多くのことを楽しむことができた。さらに、そば打ち体験の感想の中で、「そば農家を増やす」「後継者が必要」といった、鹿角市の将来を視野に入れた感想も見られ、体験を通して思考を深める様子も見られた。

自分の力で実際に経験することは、学習した内容をより深く長く記憶しておくことができ、生徒が成長する上でとても大切なことである。けいらん作りで失敗したことも作ってみななければわからなかったことで、自分の予想や想像と現実を検証する手段として体験は有効な方法の1つと言える。

今回の「おいしいかづの～まんぷく編～」での学習を通して経験から学ぶ大切さを知り、社会に出てからも経験を恐れずいろいろなことに挑戦してほしい。



代表者 1 A 上 田 夏 己
指導者 長 崎 純 一

I テーマ設定の理由

日本には「松坂牛」や「但馬牛」、「前沢牛」などの有名なブランド牛がある。ここ鹿角にも「かつの牛」というブランド牛がある。

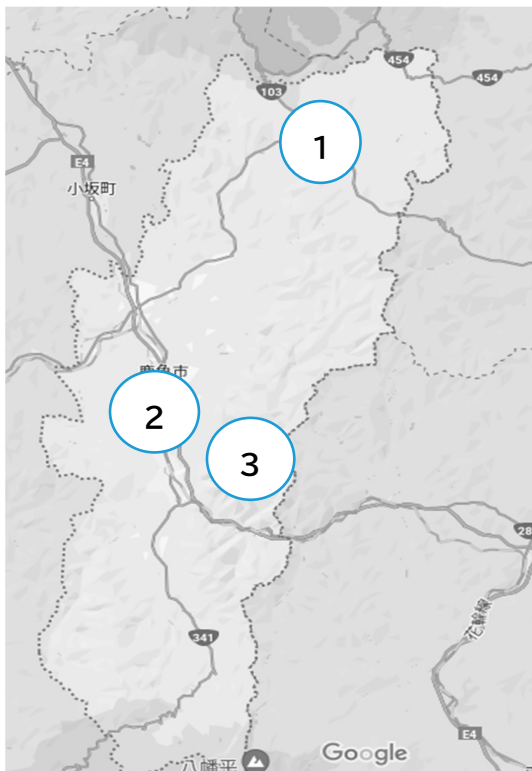
「かつの牛」について、名前は知っていたが、詳しくは知らなかったので、今回、調査する事とした。また、鹿角地域で手軽にかつの牛を食べる事が出来るお店を調査し、紹介する事で多くの人にかつの牛のおいしさを知ってもらい、消費拡大につなげたいと思い、このテーマを設定した。

II 調査・研究内容

1 かつの牛について

かつの牛は、国産和牛で「日本短角種」という品種。かつの地域では、今から約260年前、金鉱として知られた尾去沢鉱山の鉱石を運搬する役畜として使用されたと史実に記されている。本格的に肉用牛として飼われたのは戦後で、かつては鹿角市・小坂町で約3,000頭が飼育されていた。

2 かつの牛を提供しているお店



① 道の駅大湯 「大湯えんがわカフェ」

おおゆえんがわカフェの看板メニューの一つ、「かつの短角牛バーガー」



パテにはかつの牛を100%使用しており、お肉の味がしっかりと伝わってくる食べ応えのあるハンバーガー。

② 鹿角花輪駅 観光案内所前 自動販売機



鹿角花輪駅前観光案内所にある冷凍自動販売機。県畜産農業協同組合の企画で、かつの牛を手軽に購入することができる。

③ KAT'S BURGER (カツバーガー)

花輪高校の近くにあるハンバーガー専門店で、2021年5月にオープン。ハンバーガーのパテはかつの牛100%の粗挽肉を使用。またサンドしているトマトは基本的には秋田県鹿角市産、レタスやオニオンは国産で、可能な限り生産者の顔が見えるものを使用している。

III おわりに

かつの牛を使った料理は、どれも美味しかったが値段が割高であった。しかし、鹿角が誇れる食材の一つなので多くの人に食べてもらいたい。今回、調査を進めると、「八幡平ポーク」の商品も多くあった。次は八幡平ポークについても調べてみたいと思った。

代表者 1 A 畠 山 優 奈
指導者 長 崎 純 一

I テーマ設定の理由

鹿角には美味しいりんごや桃などの特産物を使用した美味しいスイーツがたくさんある。しかし、それらはあまり知られていない。「美味しいのに勿体ない！」と思ったので、今回は鹿角のスイーツについて調べてみた。

II 調査・研究内容

1 鹿角のりんごと桃について

鹿角市におけるりんご栽培の歴史は長く、明治時代に始まったとされている。

「紅玉」は果皮が真っ赤に染まり、サイズは180～200gと小玉で、酸味が強いのが特徴。香りもよく、生のまま食べると甘酸っぱくて濃厚な味わいが楽しめる。

「北限の桃」は、ゆっくり熟して最も遅い時期に出来上がるので、食感、甘みともに極上。

2 鹿角のスイーツ

◇スイーツ店「Angel」 リンゴのタルト

鹿角産の紅玉という品種のリンゴとレーズン、松の実、クルミをパイ生地に詰めて焼き上げた。



リンゴの食感がよく、甘すぎず爽やかな味。

◇ソフトクリーム 道の駅

①道の駅 おおゆ 「鹿角リンゴソフトクリーム」



一般的なソフトクリームと比べて、正控えめでさっぱりした味。

②道の駅 あんとらあ 「北限の桃ソフト」



北限の桃が使用されている。
桃の程よい甘さがちょうどいい。

③道の駅 こさか七滝 「山葡萄ソフト」



自然なぶどうの風味がする！

◇オンラインショップ

①KURAKICHI あきた フルーツ クッキー缶

今年、ニュースでも取り上げられていたクッキー缶。また、クッキーだけでなく入れものの缶も可愛いと話題に。



クッキーには北限の桃が使用されている。

②芳徳庵 「りんごどら」



鹿角のリンゴを使用している。

III おわりに

私たちはかつての学で鹿角のりんごと北限の桃について学んだ。りんごは鹿角でも多く生産され、桃は北東北で生産されているのは珍しいとの事だった。地元のフルーツを使った美味しいスイーツが沢山あるので、ぜひ食べてもらいたい。

【ポスター発表7】 鹿角地域に特徴的な動植物の生態について調査する③

ーツキノワグマによる農作物の食害に関わる調査ー

代表者 3B 中 村 朋 花
指導者 櫻 庭 洋

I はじめに

鹿角市は十和田八幡平国立公園を有する自然豊かな町であり、自然と市街地が非常に近い地域であることから、例年ツキノワグマによる農作物の食害が深刻な問題となっている。この食害を避けるために農家では電気柵の設置などを行い、鹿角市においても設置に関わる助成金を交付するなどして対策を講じている。

我々は「クマ食害マップ」について、5年分のデータを比較分析することにより、鹿角地区で起こっている食害について、地域ごとの特徴や傾向を調べようと思い、調査に取り組んだ。

II 目的

- 野生動物による農作物の食害の現状を明らかにする。
- 5年分のデータを比較し鹿角市における食害の傾向を明らかにする。

III 実施計画

- | | |
|-------|---------------------------------|
| 5月 | オリエンテーション |
| 6～8月 | 今年度の研究計画の立案と情報収集 |
| 8月 | くまくま園(北秋田市)の訪問 |
| 9～10月 | データ解析と鹿角市熊出没情報を基にした「クマ食害マップ」の作成 |
| 9～10月 | 黒又山山麓へ屋外型センサーカメラ設置 |
| 11月 | 発表用スライドの制作 |
| 12月 | 発表 |
| 1月 | まとめ |

IV 調査内容

- くまくま園(北秋田市)の訪問



Fig.1・2 くまくま園での観察



○屋外型センサーカメラの設置

〔使用機器〕 オーム電気製トレイルカメラ

〔方 法〕

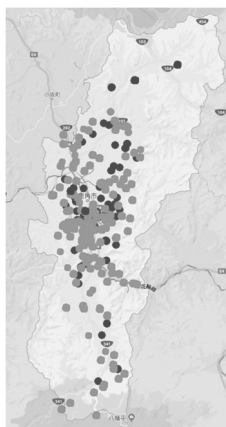
- (1) 黒又山山麓で、獣道ができていた又は動物が見られた場所に屋外型センサーカメラを2台設置した。
- (2) 動画モード(30秒間)で撮影した。
- (3) カメラの設置期間

令和5年9月5日(火)～10月10日(火)



Fig.3 撮影したツキノワグマの画像

○クマ食害マップの製作



鹿角市が公開する「熊出没情報」からクマによる食害をデータ化し、クマによる食害マップを作成する。

Fig.4 令和5年度版

クマによる食害マップ

〔●:食害 ●:目撃・痕跡等〕

※令和5年度は鹿角市から出された「熊出没情報」の記載方法が変更になり、「食害」が農作物別でなくなった。

V 考察

今年は「ドングリの不作」と言われていたことから「ツキノワグマは痩せているのではないか」と予想していた。9月13日に撮影されたツキノワグマは非常に痩せているように見えたが、10月6日に撮影されたツキノワグマはとても立派な体格だった。個体差が大きいと感じた。

目撃や痕跡の情報が非常に多く報告されている(182件)。人里や市街地に多く降りてきていることは間違いない。

【ポスター発表8】 鹿角地域に特徴的な動植物の生態について調査する④

-花輪スキー場におけるニホンジカの動画撮影-

代表者 3B 小野寺 澤
指導者 奥山 和 貴

I はじめに

鹿角市は雄大な自然に恵まれ、里山の原風景が未だに多く残る地域であり、多くの野生動物が生息する自然豊かな街である。

一昨年の「カモシカ班」の調査で、花輪スキー場でニホンジカが撮影された。数年前からニホンジカが鹿角地域に出没していることが分かっており、農作物の食害や自動車との衝突事故などが起こっている。

そこで花輪スキー場に生息するニホンジカの動画撮影を試み、個体の特徴や生態について調査することにした。

II 目的

花輪スキー場に生息するニホンジカの動画撮影を試み、個体の特徴や生態を明らかにする。

III 実施計画

- | | |
|------|-------------------------------|
| 5月 | オリエンテーション |
| 6～8月 | 今年度の研究計画の立案と情報収集 |
| 8～9月 | データ解析と鹿角市熊出没情報を基にした「食害マップ」の作成 |
| 10月 | 画像データの解析 |
| 11月 | 発表用スライドの制作 |
| 12月 | 発表 |
| 1月 | まとめ |

IV 調査内容

〔使用機器〕 オーム電気製トレイルカメラ

〔方 法〕

- (1) 花輪スキー場ゲレンデ上で、獣道ができている、又は動物が見られたという場所に屋外型センサーカメラを2台設置した。
- (2) 動画モード(30秒間)で撮影した。
- (3) カメラの設置期間
令和5年8月5日(土)～8月19日(土)
令和5年9月5日(土)～9月22日(金)

〔結 果〕



Fig.1 撮影したニホンジカの画像



Fig.2 撮影したイノシシの画像

V 考察

たった1本ではあったがニホンジカを撮影することができた。短期間の調査で撮影に成功していること、鹿角市が発表している「鳥獣目撃情報」にも数件の目撃等の報告があることから、相当数が鹿角市に侵入していると思われる。加えて、イノシシの目撃情報も非常に増加している。鹿角市はリンゴやモモの生産が盛んな地域であり、今後、ニホンジカなどの侵入が増えると農業被害も問題になってくることが考えられる。

ニホンジカやイノシシによる食害への対応として「電気柵の設置」が勧められている。これはツキノワグマにも有効とされており、鹿角市でも助成金を交付して対策している。今後個体数が増えていくようであれば、更なる対策が必要になると思われる。

令和5年度 ふるさと教育「かづの学」公開研究発表会

《公開研究発表会の概要》

1 日 時 12月20日(水) 12:25～15:30

2 会 場 十和田高等学校 第一体育館・教室棟

3 日 程

12:25～12:35 開会式(第一体育館)
 12:35～13:50 口頭発表(第一体育館)
 13:50～14:05 移動、準備
 14:05～15:05 ポスター発表(各教室) ※1回15分の発表を4回実施
 ① 14:05～14:20
 ② 14:20～14:35
 ③ 14:35～14:50
 ④ 14:50～15:05
 15:05～15:15 移動
 15:15～15:30 閉会式(第一体育館)

4 発 表 口頭発表、ポスター発表の組み合わせで行う。

〈口頭発表〉

① 1年 1 鹿角の桃 2 鹿角の食①(けいらん) 3 毛馬内盆踊り(35分)
② 鹿角茜染伝承隊Ⅱ (20分)
③ 鹿角PR動画制作Final (20分)

〈ポスター発表〉

講座名・グループ	使用教室	
① 鹿角地域に特徴的な動植物の生態について調査する 1	補習室2-1	2 階
② 鹿角地域に特徴的な動植物の生態について調査する 2	2A教室	
③ つるし雛	補習室2-2	
④ おいしいかづの～まんぷく編～	2B教室	
⑤ 1年鹿角の食②(鹿角牛)	3A教室	1 階
⑥ 1年鹿角の食③(スイーツ)	補習室1-1	
⑦ 鹿角地域に特徴的な動植物の生態について調査する 3	3B教室	
⑧ 鹿角地域に特徴的な動植物の生態について調査する 4	補習室1-2	

《公開研究発表会の様子》



《参観者のアンケートから》

1. 発表内容について気づいたこと

(1) 口頭発表

- ・発表3は毛馬内盆踊りだけでなく西馬音内についても調べ比較することで毛馬内盆踊りの魅力を伝えていた。よく工夫されていると感じた。
- ・高校生の考えている内容とは思えない程、想いや情熱が伝わる発表で感動しました。
- ・丁寧に深いところまで調べていてすばらしいと思いました。自分の言葉で発表できていたところが良かったです。生徒からの質問があれば発表会がさらに盛り上がったと思います。
- ・茜染の取り組みは長く続けていくことで美しい色と伝統を作ることができるすばらしい活動であり、是非鹿角高校でも継続してほしいと思いました。
- ・どの発表もレベルが高く、特に東北ブロック大会で最優秀賞に輝いた茜染の発表は内容も手法もプレゼンも素晴らしかったです。統合後も活動を続けて市民の皆様にも広く知っていただきたいと思いました。
- ・口頭発表では鹿角の食文化や鹿角の伝統芸能について知ることができました。実際に作ってみたり、体験したりしているのがすばらしいと思いました。実際にやったからの経験や話を聞くことができてよかったです。来年も続くようなので、一緒にやってみたいと思いました。
- ・スライドが簡潔にまとめられていて一目で多くの情報を得ることができた。知らない鹿角の良い所や元々知っていたがより考えを深めることができた発表が多かった。特におもしろいと感じたのはCMを用いた発表だった。

(2) ポスター発表

- ・試行錯誤しながら取り組んできたことがわかります。聞き手のフロアからもっと質問が出るといい。「なぜ?」「どうして?」はとても大切なことなので、自然発生的に出ないとすれば「1人1回は質問」というノルマがあってもいい。「聞き方」にも目的が出ると思う。12のクマの発表、内容、伝え方(話し方)、資料とてもよかった。
- ・写真があることで分かりやすい。カワウ、クマ、シカの調査発表はうわさレベルの情報しかなかった私にとって実態を知る機会となりました。多くの人に知っていただきたいと思いました。5年間の経過観察もあるなど貴重なデータでもあると思います。
- ・単年の研究ではなく、かなり奥の深い積み重ねのある取り組みに感心しました。また、それぞれの興味ある対象を上手に選び楽しそうにやったんだということが感じられ、何より大切なことだと思われました。
- ・研究を掘り下げるに当たって多方面(ネット、本、先達者、現場等)からの情報収集に努め精査して正しい情報の選択のすべも学んで欲しいと願います。

2. 発表資料(スライド、ポスター等)をみて気づいたこと

- ・試行実験・研究を深めている(4)、動画がもう少し分かるものであって欲しい(5)、電子黒板とポスターの組み合わせは良いが、ポスターの文字が小さく見えないところがあった。
- ・スライドについて:文字が多くそのまま読まれているチームがあったので画像に置き換え、言葉で伝える際は、セリフで伝えるといい。スライド転換が多く見てたいへんなチームがあった。相手意識を持って作成するといい。
- ・プレゼンスライドの作成スキルの向上が見られました。画像や動画の活用も増え、昨年よりもレベルアップしていました。たいへん良かったです。※公の場での発表なので、出典、引用、参考文献、参考資料、インタビュー協力者などの紹介は、どのグループも行った方がよいと思いました。

3. 全体の感想

- ・社会に出て一生の財産となる体験・経験だったと思います。
- ・全ての発表は、十高最後の「かづの学」にふさわしかった。鹿角高校でも継続してください。
- ・楽しく研究に取り組む、こうした試みが新設校でも受け継がればよいと思います。
- ・小・中とふるさとキャリア教育に力を入れています。その延長にあるのは地域の未来を担う人材の育成です。身近な地域についてよく学び、経済的に人々を支える産業に結びつき、持続可能なふるさとづくりにつながって欲しいと願うのみです。「かづの学」の取り組みは未来へのよいアプローチになると思います。「起業」につながるはしごになるとなるとよいと思います。本日参加できてたいへん良かったです。統合しても探究は続けて欲しいです。
- ・縁があって1回目のかづの学発表会に参加させていただいてから、あっという間に10年が経過し、今日が最後の発表会だということで、感慨深いものがあります。質問がもう少し出るような和やかでフランクな雰囲気があってもよいのかなと思いました。鹿角高校に引き継がれるとしたらご検討ください。
- ・どの発表もレベルが高く見応えがありました。市民の皆様にも知っていただきたい情報も多くそうした機会があるといいなと思いました。かづの学は統合後に引き継がれてほしいと思います。

《生徒のワークシートから》

1. 自分のテーマの研究について

(1) 毎時間の研究を通して思ったこと

- ・研究を進めていくにつれて普段は調べることがないものについて、これをきっかけに調べて知れば知るほど、なぜこうなのかという疑問がたくさん出てきて楽しかった。普段きっかけがなければ調べなかったけれど、自分が興味を持ったものは調べていくことができるようになりたい。
- ・最初は茜染の知識が全くなく、染めを体験したこともなかったけど茜染研究会の方々にも協力していただき、色々なことを経験することができました。地域の方々に私たちが講師を務めて染めを教えたなでしこ塾では、たくさんの人に喜んでもらえてやりがいを感じました。
- ・地元の魅力を感じて発信することは、決して手を出しにくく難しいことではなく、むしろ楽しく有意義なことだと感じた。

(2) 資料を作ったこと

- ・思ったこと、感じたことをそのまま文にはできないので、人に伝わるようにまとめなくてはならなかったのが少し大変でした。しかし、仲間がいたので、感じていることを共有して共に作ったので良いものができました。一人より多くで作る大切さを知りました。
- ・資料を作る上でたくさんの直しをもらったが、それにより文章の書き方を学べたと思う。同じ班の人とも協力して作ることができたので良い経験だった。これを来年にも活かせるようにしたい。
- ・目撃情報をマップにしてみると、昨年度以降に比べて全然違ったのすごいいと感じました。

(3) 自己評価（4段階評価にて実施）

アンケート項目	1A	1B	2A	2B	3A	3B	全校
(1) 今回の研究テーマを選択して良かったか	3.69	3.71	3.85	3.87	3.74	4.00	3.80
(2) 研究内容は意義あるものだったか	3.69	3.59	3.92	3.93	3.74	4.00	3.80
(3) 主体的に取り組むことができたか	3.63	3.71	3.69	3.87	3.74	4.00	3.77
(4) 他者と協働しながら活動することができたか	3.75	3.76	3.77	3.93	4.00	4.00	3.87
(5) 深く学ぶことができたか	3.56	3.53	3.85	3.80	3.74	3.86	3.71
(6) 課題を見つけることができたか	3.31	3.35	3.54	3.60	3.58	3.86	3.53
(7) 今後さらに発展していく内容であったか	3.44	3.24	3.62	3.80	3.58	3.86	3.57

2. 他のテーマの発表について

(1) 口頭発表を聞いて気づいたこと

- ・鹿角茜染伝承隊Ⅱはオリジナリティーがすごかった。グラフもあり、説得力があった。
- ・けいらんというものがあるのを初めて知った。いつか食べてみたい。
- ・たくさんの人が知っている有名な所にスポットを当ててのではなく、逆にあまりスポットが当たっていない点を取り上げ、CMにする所がとてもいいと思った。

(2) ポスター発表を聞いて気づいたこと

- ・多くのおいしいスイーツがある。あまり知られていない→「勿体ない!!」地元の知らないスイーツがたくさんあった。オンラインでも売っている。
- ・クマの生態について知れた。実際に使ったカメラも見られて楽しかった。ハクビシン…??小さくてかわいい。令和5年の発見量がすごく多くてびっくりした。
- ・かづの牛は「日本短角種」という品種。約260年前から鉱石を運搬する役畜として使用された。冷凍自動販売機で手軽に手に入れることができる。

3. 感想、今後研究したい内容

- ・今回初めてかづの学をやってみて最初は全然やる気が出なかったけど班のメンバーの背中を見てどんどんやる気が湧いてきて8月の盆踊りやその後の授業でのかづの学がめっちゃ楽しかったです。こんな風に友達と協力して1つのテーマを考えて研究発表するというのがとても楽しかったので鹿角高校に行ってもまたやりたいなと思いました。
- ・今回のかづの学では興味深い内容の発表がたくさんありました。今の鹿角は少子高齢化で後継者が少ないことが問題になっています。なので高校生が主体となって鹿角について学んでいくことで少しでも興味を持てば、鹿角で働きたいと思う人が増えるのではないかと思います。なのでこの「かづの学」という活動は、十和田高校だけでなく色々な学校で行われるべきだと私は思います。そこから他地域に発信していけば、もっともっとよりよい活動になると思います。来年もこの活動を続けていきたいと思いました。
- ・私は幼い頃から毛馬内の盆踊りに出ていて、それなりに詳しい方だと思っていましたが、1年生の発表を見て、まだまだ知らない知識がいっぱいあってびっくりしました。このようにかづの学を通して新しい知識を知ることができてとても良かったです。もうかづの学を学ぶ機会はありませんが、自ら地元の良さについて学ぶ姿勢を大切にしていきたいです。

令和5年度 ふるさと教育「かづの学」 指導者・協力者

1年基礎講座	北限の桃	鹿角果樹センター班長	熊谷 一 様
	鹿角の食	サロン・ド・割烹美ふじ女将	加藤 照子 様
	毛馬内盆踊り	毛馬内盆踊保存会会長	馬 渕 大三 様
			毛馬内盆踊保存会の皆様
2・3年講座	鹿角茜染伝承隊Ⅱ	一般社団法人鹿角紫根染・茜染研究会会長	關 幸子 様
		一般社団法人鹿角紫根染・茜染研究会	米 田 久美子 様
		一般社団法人鹿角紫根染・茜染研究会	井 上 和子 様
		一般社団法人鹿角紫根染・茜染研究会	小 鴨 祐子 様
		一般社団法人鹿角紫根染・茜染研究会	作 山 忍 様
		恋する鹿角カンパニー道の駅おおゆ	
	鹿角PR動画制作F i n a l	物販産直チームマネージャー	兎 沢 優 哉 様
			鹿角市産業部産業活力課の皆様
		四季彩り 秋田づくし	湯瀬ホテル 様
		鹿角市大湯温泉保養センター	湯都里 様
つるし雛	ぬいっこクラブ		秋田朝日放送株式会社 様
			山 崎 政子 様
			田 原 孝子 様
			小田嶋 秀子 様
おいしいかづの～まんぷく編～	農事組合法人 大里ファーム	副理事	浅 石 昌 敏 様
			有限会社 刈谷食品 様
			鹿角市総務部政策企画課の皆様
公開研究発表会	講評	鹿角市長 関	厚 様

御指導、御協力、御参観ありがとうございました。

編集後記

十和田高校最後の年に、ふるさと教育「かづの学」は10年目となりました。今年度も全校生徒がグループに分かれ、鹿角に関する様々なテーマを設定して研究に取り組みました。今年度は継続して研究しているグループが多く、より深い探究活動になったグループが見られました。生徒にとってはより広く深い鹿角地域への理解を進め、課題に気づいたり、新たな興味を抱く良い機会となりました。

公開研究発表会につきましては、プレゼンテーションの力を身に付けさせることをねらいとし、体育館での口頭発表と各教室でのポスター発表を実施しました。口頭発表では生徒からの質問がなく少し残念でしたが、ポスター発表では質疑応答があつて時間が足りないという声もありました。また、昨年度に引き続き、花輪高校と小坂高校から1年生を招待し、参観していただきました。「十和田高校生の行動力に感心した、自分もテーマ研究を行う際に参考にしたい」等の感想をいただきました。

最後になりますが、これまで毎年、本校のふるさと教育事業に際し、労を厭わず温かく御協力いただいた関係機関の皆様に改めて感謝申し上げます。

キャリア教育推進委員会

小野 耕右 岩澤 利哉 渡邊 一郎 佐々木 大輔 小塚 卓人
土門 祐子 櫻庭 洋

令和5年度 ふるさと教育「かづの学」研究集録 第10号

令和6年3月1日 発行

編集者 秋田県立十和田高等学校 キャリア教育推進委員会

発行者 秋田県立十和田高等学校 校長 深井 裕之

電 話 0186-35-2062

FAX 0186-35-2272
